

令和5年度 地域ケア個別会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター ひだまりの庭

日時及び場所	参加者	自立支援に資する討議内容
7月18日 (火) 13:30～15:00 水谷公民館 多目的ホール	介護支援専門員8名 サービス事業者2名 生活支援コーディネーター1名 ボランティアセンター1名 増進センター作業療法士1名 高齢者福祉課1名 高齢者あんしん相談センター3名 計17名	事例①《ケース概要》 88歳女性。独居。要介護1。週二回のデイサービス、週1回の訪問介護、富士見市によるごみのふれあい収集を利用中。下肢筋力の低下から外出がこんなになり、性格が不活発になっている。加齢からくる物忘れもあり。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 短期記憶障害によるサービス利用時のトラブルがある。 →認知症の方の地域生活に有効な支援方法について。 →関係者間での共通認識。トラブル時の対応方法の事前検討。 歩行にふらつきがあるので歩行器を提案したが、本人が受け入れない。 →必要だが本人が望まないサービスの導入について →支援者があせらず本人が必要と思うまで見守ることも必要。専門職からの評価や提案の機会を作る。 事例②《ケース概要》 79歳女性。夫と二人暮らし。要介護1。自覚症状のある物忘れがある。意欲的に生活していたため今後もいろいろな活動を継続したい。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 本人が地域で活動できる場の継続を希望している。生きがいへの支援。 →フォーマル・インフォーマルの有効な新方法について。 →デイサービスの曜日時間を調整し、時間を確保。社協でサロンやサークル活動の情報提供を受けられる。受け入れの調整まで相談できる。 同居している主介護者である夫にも認知症症状が出現している。 →ささえあう二人両方に支援が必要なケースへの支援体制について。 →子供がいるので、連携を強化していく。事業所間においても情報共有し認識を統一する。
11月13日(月) 13:30～15:01 水谷公民館 講座室	介護支援専門員5名 サービス事業者2名 歯科衛生士1名 生活支援コーディネーター1名 増進センター作業療法士1名 高齢者福祉課2名 高齢者あんしん相談センター5名 計17名	事例①《ケース概要》 90歳女性。統合失調症の障害を持つ長男と二人暮らし。要介護1。障害のある子を抱えながら自身も加齢による心身の衰えがあり支援が必要になってきている。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 自身の希望により始めたデイサービスを休みがちである。 →なぜ休んでしまうか、理由を確認しサービスの介入状況を確認。 →休んでしまう理由ごとに対応を検討。送り出しの訪問介護を予定した支援だけでなく、必要なことを柔軟に対応できる支援を検討する。 事例②《ケース概要》 87歳男性。妻と長男と3人暮らし。要介護2。自宅で食堂やって生活してきたが、人付き合いが嫌いな本人。嫌がっていたデイサービスを本人が体の衰えを感じ始め利用していたが、最近は休みがちである。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 心身の維持と向上へのかかわり。 →本人の意欲維持の方法。車酔い、高血圧の対応について。 →生活上で来ていることの継続、目標設定をすることによる意欲の向上。送迎経路の検討による体への負担軽減。 家族の健康状態について。 →長男の精神疾患や妻の高齢化について。 →家族の健康状態についてアセスメントしておく必要がある。

<p>2月9日(金) 13:30～15:00</p> <p>水谷公民館 講座室</p>	<p>介護支援専門員7名 サービス事業者4名 管理栄養士1名 生活支援コーディネーター1名 増進センター保健師1名 高齢者福祉課1名 高齢者あんしん相談センター5名</p> <p>計20名</p>	<p>事例①《ケース概要》 81歳女性。独居。要介護1。転倒により圧迫骨折。今までできていた家事ができなくなり、横になって過ごすことが多くなった。身の回りのことはできるが自宅での入浴ができない。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 腰の痛みが強く、活動量の低下から廃用につながる恐れがある。 →痛みの治療と活動量の確保について。 →医師との連携。適切なリハビリの提供。福祉用具による負担の軽減。 体重の減少。 →BMIは適正範囲だが5キロの体重減少があった。 →体重減少の原因を確認。簡単、少ない量、摂取しやすいなど状態に合わせた食事の提案。 ADLの低下により生活意欲が低下している。 →けがをする前はボランティア活動を積極的にしていた。再開したいが自信がない。QOLの向上について。 →家族との関係がよいので家族と一緒にできる活動などを検討。痛みなどのバランスを取りながら情報提供。</p> <p>事例②《ケース概要》 79歳女性。夫入院中で独居。介護1。乳がん、肺大腸に転移。網膜剥離。夫とは再婚同士でそれぞれに連れ子有。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 予後について。 →主病のがんからの転移が認められており、状態悪化のリスクがある。 →病気の理解とともに本人の状況の把握が常に必要。本人がはっきりしているうちにACPの話し合いを試みる。痛みへのケアも重要。入浴時の管理など総合的なケアの必要性が予想される。医療との連携。 認知機能の低下。詐欺被害にあう可能性が心配。 →もともと通販などを頻繁に利用していた。営業電話などを詳しく聞いてしまう。加齢もあり判断力が低下しているのが心配。 →関わる人の助言が有効。市による詐欺被害防止のための電話機購入の補助なども情報提供する。</p>
---	--	---